WindowsシステムへのUnified Managerのインストール

Active IQ Unified Manager

NetApp
November 13, 2026

This PDF was generated from https://docs.netapp.com/ja-jp/active-iq-unified-manager-918/install-windows/concept_introduction_to_unified_manager.html on November 13, 2026. Always check docs.netapp.com for the latest.

目次

WindowsシステムへのUnified Managerのインストール 1
Active IQ Unified Managerの概要 1
Active IQ Unified Manager について学ぶ 1
Active IQ Unified Manager サーバーの機能について 1
Active IQ Unified Manager のインストール手順について 1
Unified Managerをインストールするための要件 2
サーバーが Active IQ Unified Manager のインストール要件を満たしていることを確認してください 2
Active IQ Unified Manager の仮想インフラおよびハードウェア要件を理解する 2
Active IQ Unified Manager のWindowsソフトウェアおよびインストール要件について 4
Active IQ Unified Manager でサポートされているブラウザを使用してください 5
Active IQ Unified Manager のプロトコルとポートの要件を理解する 6
Active IQ Unified Manager でワークシートを完成させてください 8
Unified Managerソフトウェアのインストール、アップグレード、および削除 10
Windows への Active IQ Unified Manager のインストールプロセスの概要 10
WindowsにUnified Managerをインストールする 10
Active IQ Unified Manager で Windows の JBoss パスワードを変更する 14
Active IQ Unified Manager のバージョンに対してサポートされているアップグレードパスを使用してください 15
Windows上でActive IQ Unified Managerをアップグレードする 15
サードパーティ製品をアップグレードする 17
Active IQ Unified Manager のサードパーティ製品をアンインストールする 18
Windows で Active IQ Unified Manager を再起動する 18
Active IQ Unified Manager のアンインストール 19

WindowsシステムへのUnified Managerのインストール

Active IQ Unified Managerの概要

Active IQ Unified Manager について学ぶ

Active IQ Unified Manager（旧OnCommand Unified Manager）では、ONTAPストレージシステムの健全性とパフォーマンスを一元的に監視および管理することができます。Unified Managerは、LinuxサーバやWindowsサーバに導入できるほか、VMwareホストに仮想アプライアンスとして導入することもできます。

インストールの完了後、管理対象のクラスタを追加すると、Unified Managerのグラフィカル インターフェイスに、監視対象ストレージ システムの容量、可用性、保護、パフォーマンスのステータスが表示されます。

関連情報

"NetApp Interoperability Matrix Tool"

Active IQ Unified Manager サーバーの機能について

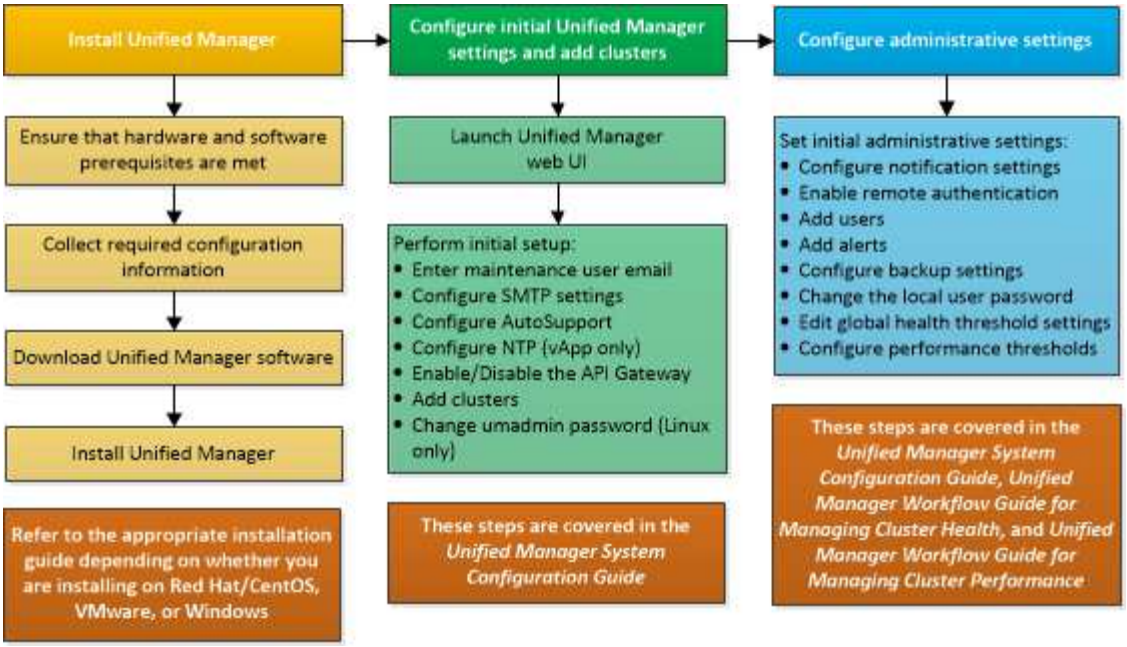
Unified Managerサーバーのインフラストラクチャは、データ収集ユニット、データベース、およびアプリケーションサーバーで構成されています。検出、監視、ロールベースのアクセス制御（RBAC）、監査、およびログ記録などのインフラストラクチャサービスを提供します。

Unified Managerはクラスタ情報を収集し、そのデータをデータベースに保存し、データを分析してクラスタに問題がないかどうかを確認します。

Active IQ Unified Manager のインストール手順について

インストールワークフローには、Unified Manager を使用する前に実行する必要があるタスクが記載されています。

以降の各セクションでは、このワークフローの各項目について説明します。



Unified Managerをインストールするための要件

サーバーが **Active IQ Unified Manager** のインストール要件を満たしていることを確認してください

インストール プロセスを開始する前に、Unified Managerをインストールするサーバが、ソフトウェア、ハードウェア、CPU、およびメモリに関する所定の要件を満たしていることを確認します。

NetAppはUnified Managerアプリケーション コードの変更をサポートしていません。Unified Managerサーバにセキュリティ対策を適用する必要がある場合は、Unified Managerがインストールされているオペレーティング システムに変更を加える必要があります。

Unified Managerサーバへのセキュリティ対策の適用の詳細については、ナレッジ ベースの記事を参照してください。

"Supportability for Security Measures applied to Active IQ Unified Manager for Clustered Data ONTAP"

関連情報

"NetApp Interoperability Matrix Tool"

Active IQ Unified Manager の仮想インフラおよびハードウェア要件を理解する

Unified Managerを仮想インフラまたは物理システムにインストールするには、メモリ、CPU、およびディスク スペースの最小要件を満たす必要があります。

次の表に、メモリ、CPU、およびディスク スペースの各リソースについて、推奨される値を示します。これらは、Unified Managerが許容されるパフォーマンス レベルを達成することが確認されている値です。

ハードウェア構成	推奨設定
RAM	12 GB
プロセッサ	CPU×4
CPUサイクル	合計9572MHz（最小要件は9572MHz）
空きディスク スペース	150GB。割り当ては次のとおりです。 • 100GB - インストール ディレクトリ用 • 50G - MySQLのデータ ディレクトリ用

Unified Managerはメモリ容量の少ないシステムにもインストールできますが、推奨される12 GBのRAMを搭載することで、最適なパフォーマンスに必要なメモリが確保され、構成の拡張に伴って追加のクラスタやストレージオブジェクトをシステムが収容できるようになります。Unified Managerを導入するVMにはメモリの上限を設定しないでください。また、ソフトウェアがシステムで割り当てられているメモリを利用できなくなる機能（バルーニングなど）は有効にしないでください。

さらに、1つのUnified Managerインスタンスで監視できるノードの数には上限があり、この上限を超える場合は2つ目のUnified Managerインスタンスをインストールします。ノード制限、CPU、メモリの推奨事項については、 "Unified Manager のベストプラクティスガイド"を参照してください。

メモリ ページのスワッピングは、システムや管理アプリケーションのパフォーマンスにマイナスの影響を及ぼします。CPUリソースがホスト全体で競合して使用できなくなると、パフォーマンスが低下することがあります。

専用使用の要件

Unified Managerをインストールする物理システムまたは仮想システムは、他のアプリケーションとは共有せず、Unified Manager専用にする必要があります。他のアプリケーションにシステム リソースが消費されることで、Unified Managerのパフォーマンスが大幅に低下する可能性があります。

バックアップ用のスペース要件

Unified Managerのバックアップおよび復元機能を使用する予定がある場合は、「`data`」ディレクトリまたはディスクに150 GBの空き容量を確保してください。バックアップは、ローカルの保存先またはリモートの保存先に書き込むことができます。最適な方法は、Unified Managerホストシステムとは別の、最低150 GBの空き容量を持つリモートロケーションを特定することです。

ホスト接続の要件

Unified Managerをインストールする物理システムまたは仮想システムは、ホスト自体からホスト名に対して正常に `ping`できるように構成されている必要があります。IPv6構成の場合は、Unified Managerのインストールを確実に成功させるために、ホスト名への `ping6`が成功することを確認する必要があります。

本製品のWeb UIには、ホスト名（またはホストのIPアドレス）を使用してアクセスできます。導入時に静的IPアドレスを使用してネットワークを設定した場合は、指定したネットワーク ホストの名前を使用します。DHCPを使用してネットワークを設定した場合は、DNSからホスト名を取得します。

完全修飾ドメイン名（FQDN）またはIPアドレスの代わりに短縮名を使用したUnified Managerへのアクセスをユーザに許可する場合は、短縮名が有効なFQDNに解決されるようにネットワークを設定する必要があります。

Active IQ Unified Manager のWindowsソフトウェアおよびインストール要件について

Unified ManagerをWindowsに正しくインストールするには、Unified Managerをインストールするシステムがソフトウェアの要件を満たしている必要があります。

オペレーティング システム ソフトウェア

Unified Managerは次のWindowsエディションにインストールできます。

- Microsoft Windows Server 2019 Standard EditionおよびDatacenter Edition
- Microsoft Windows Server 2022 Standard EditionおよびDatacenter Edition

Unified Managerは、64ビットWindowsオペレーティング システムの次の言語版に対応しています。

- 英語
- 日本語
- 簡体字中国語

サポートされているWindowsのバージョンの最新のリストについては、Interoperability Matrixを参照してください。

"mysupport.netapp.com/matrix"

NetAppは、Microsoft System Center Configuration Manager（SCCM）などのサードパーティ製ツールを使用したUnified Managerのインストールをサポートしていません。

Unified Managerのみを実行する専用のサーバを用意する必要があります。他のアプリケーションをサーバにインストールしないでください。社内の規定により、Windowsシステムにアクティブなウイルス対策ソフトウェアがインストールされている可能性があります。Unified Managerのインストールが失敗しないように、インストール前にウイルス対策ソフトウェアを無効にする必要があります。

サードパーティ製ソフトウェア

Unified Managerには、以下のサードパーティ パッケージがバンドルされています。これらのサードパーティパッケージがシステムにインストールされていない場合は、Unified Managerのインストール時にインストールされます。

- Microsoft Visual C++ Redistributable Packages for Visual Studio 2015 version 14.29.30133.0
- MySQL Community Editionバージョン8.4.10
- Python 3.13.3
- OpenJDK バージョン 17.0.15+6
- 7-zip バージョン 25.01 以降

Unified Manager 9.5以降、OpenJDKはUnified Managerのインストール パッケージに含まれており、自動的にインストールされます。Unified Manager 9.5以降ではOracle Javaはサポートされません。

MySQLが事前にインストールされている場合は、次の点を確認してください。

- デフォルトのポートを使用していること。
- サンプル データベースがインストールされていないこと。
- サービス名は「`MYSQL84`」です。

Unified ManagerはWildFly Webサーバに導入されます。WildFly 27.0.1.Final は Unified Manager にバンドルされ、設定されています。

> サードパーティ製ソフトウェアをアップグレードする前に、Unified Managerの実行中のインスタンスをシャットダウンする必要があります。サードパーティ製ソフトウェアのインストールが完了したら、Unified Managerを再起動できます。

インストールの要件

- Microsoft .NET 4.5.2以降がインストールされている必要があります。
- インストールファイルを展開するために、 `temp` ディレクトリには2GBのディスクスペースを設定する必要があります。ディレクトリが作成されたかどうかを確認するには、コマンドラインインターフェースで次のコマンドを実行します： `echo %temp%`
- Unified ManagerのMSIファイルのキャッシュ用に、Windowsドライブに2GBのディスク スペースを確保しておく必要があります。
- Unified ManagerをインストールするMicrosoft Windows Serverには、ホスト名とFQDNへの `ping`応答が成功するように、完全修飾ドメイン名（FQDN）を設定する必要があります。
- Microsoft IIS World Wide Web発行サービスを無効にして、ポート80および443を空けておく必要があります。
- インストール中は、「`Windows Installer RDS Compatibility`」のリモートデスクトップセッションホスト設定が無効になっていることを確認してください。
- UDPポート514を空けておき、他のサービスで使用されないようにする必要があります。
- Unified Managerをインストールする前に、システムのウイルス対策ソフトウェアをすべて無効にしてください。インストールが完了したら、ウイルス対策スキャンの対象から次のパスを手動で除外してください。
  - 例えば、Unified Managerのデータディレクトリ、 `C:\ProgramData\NetApp\OnCommandAppData\`
  - Unified Managerのインストールディレクトリ、たとえば `\C:\Program Files\NetApp\`
  - MySQLデータディレクトリ（例： `C:\ProgramData\MySQL\MySQLServerData`）

Active IQ Unified Manager でサポートされているブラウザを使用してください

Unified Manager Web UIにアクセスするには、サポートされているブラウザを使用します。

サポートされているブラウザとバージョンの一覧は、Interoperability Matrixを参照してください。

"mysupport.netapp.com/matrix"

どのブラウザでも、ポップアップ ブロックを無効にすることでソフトウェアの機能が正しく表示されます。

アイデンティティ プロバイダ（IdP）でユーザが認証されるように、Unified ManagerにSAML認証を設定する場合は、IdPでサポートされているブラウザの一覧も確認してください。

Active IQ Unified Manager のプロトコルとポートの要件を理解する

これらのポートとプロトコルを使用して、Unified Managerサーバは管理対象のストレージ システム、サーバ、その他のコンポーネントと通信します。

Unified Managerサーバへの接続

通常の環境では、Unified Manager Web UIへの接続に常にデフォルトのポートが使用されるため、ポート番号を指定する必要はありません。たとえば、Unified Managerは常にデフォルトポートでの動作を試みるため、`https://<host>:443`の代わりに `https://<host>`を入力できます。

Unified Managerサーバでは、次のインターフェイスにアクセスする際に特定のプロトコルを使用します。

インターフェイス	**Protocol**	ポート	説明
Unified Manager Web UI	HTTP	80	Unified Manager Web UIへのアクセスに使用され、自動的にセキュア ポート443にリダイレクトされます。
Unified Manager Web UIおよびAPIを使用するプログラム	HTTPS	443	Unified Manager Web UIへのセキュアなアクセスとAPI呼び出しに使用されます。API呼び出しはHTTPSでしか実行できません。
メンテナンス コンソール	SSH / SFTP	22	メンテナンス コンソールにアクセスしてサポート バンドルを取得する際に使用されます。
Linuxコマンドライン	SSH / SFTP	22	Red Hat Enterprise Linuxのコマンドラインにアクセスしてサポート バンドルを取得する際に使用されます。
syslog	UDP	514	ONTAPシステムからのサブスクリプションベースのEMSメッセージにアクセスし、メッセージに基づいてイベントを作成する際に使用されます。
REST	HTTPS	9443	認証されたONTAPシステムからのREST APIベースのリアルタイムのEMSイベントにアクセスする際に使用されます。

インターフェイス	**Protocol**	ポート	説明
MySQLデータベース	MySQL	3306	OnCommand Workflow AutomationおよびOnCommand API ServicesからUnified Managerへのアクセスで使用されます。
AMQP QPIDブローカー	TCP / IP	56072	内部メッセージ通信に使用されます。
AMQP QPIDブローカー	TCP経由のWebSocket	56080	ONTAP（クラウド エージェント）から受信するメッセージをこのポートでリッスンするために使用されます。
AMQP QPIDブローカー	TCP経由のWebSocket	56443	ONTAP（クラウド エージェント）から受信するメッセージをこのポートでリッスンするために使用されます。このポートを介した通信では、TLSまたはSSLによる暗号化がサポートされます。

WindowsシステムにUnified Managerをインストールする際、MySQLのデフォルトポートである3306はlocalhostのみに制限されます。インストールが完了したら、ファイアウォールを有効にして、MySQLポート（3306番）へのアクセスを制限してください。これは、以前の構成が維持されるアップグレードシナリオには影響しません。この構成は変更可能であり、メンテナンスコンソールの `Control access to MySQL port 3306`オプションを使用することで、他のホストから接続できるようにすることができます。詳細については、"その他のメニュー オプション"を参照してください。HTTPおよびHTTPS通信に使用されるポート（ポート80および443）は、Unified Managerのメンテナンスコンソールを使用して変更できます。詳細については、"Active IQ Unified Managerの設定"を参照してください。

Unified Managerサーバからの接続

ファイアウォールの設定で、Unified Managerサーバと管理対象のストレージ システム、サーバ、その他のコンポーネントの間の通信に使用するポートを開いておく必要があります。ポートが開いていない場合、通信は失敗します。

環境に応じて、Unified Managerサーバから特定の接続先への接続に使用するポートとプロトコルを変更することもできます。

Unified Managerサーバは、次のプロトコルとポートを使用して、管理対象のストレージ システム、サーバ、その他のコンポーネントに接続します。

デスティネーション	**Protocol**	ポート	説明
ストレージ システム	HTTPS	443 / TCP	ストレージ システムの監視と管理に使用されます。

デスティネーション	**Protocol**	ポート	説明
ストレージ システム	NDMP	10000 / TCP	特定のSnapshotリストア処理に使用されます。
AutoSupportサーバ	HTTPS	443	AutoSupport情報の送信に使用されます。この機能を実行するにはインターネット アクセスが必要です。
認証サーバ	LDAP	389	認証要求、およびユーザとグループの検索要求に使用されます。
LDAPS	636	セキュアなLDAP通信に使用されます。	メール サーバ
SMTP	25	アラート通知Eメールの送信に使用されます。	SNMPトラップの送信元
SNMPv1またはSNMPv3	162 / UDP	アラート通知SNMPトラップの送信に使用されます。	外部データ プロバイダのサーバ
TCP	2003	外部のデータ プロバイダ（Graphiteなど）へのパフォーマンス データの送信に使用されます。	NTP サーバ
NTP	123 / UDP	Unified Managerサーバの時間を外部のNTPタイムサーバと同期するために使用されます（VMwareシステムのみ）。	AMQP QPIDブローカー
TCP / IP	56072	内部メッセージ通信に使用されます。	AMQP QPIDブローカー
TCP経由のWebSocket	56080	ONTAP（クラウド エージェント）から受信するメッセージをこのポートでリッスンするために使用されます。	AMQP QPIDブローカー
TCP経由のWebSocket	56443	ONTAP（クラウド エージェント）から受信するメッセージをこのポートでリッスンするために使用されます。このポートを介した通信では、TLSまたはSSLによる暗号化がサポートされます。	syslog

Active IQ Unified Manager でワークシートを完成させてください

Unified Managerをインストールおよび構成する前に、ご使用の環境に関する具体的な情報を準備しておく必要があります。その情報はワークシートに記録できます。

Unified Managerのインストール情報

Unified Managerをインストールするために必要な詳細情報。

ソフトウェアが展開されるシステム	あなたの価値
ホストの完全修飾ドメイン名	
ホストのIPアドレス	
ネットワーク マスク	
ゲートウェイのIPアドレス	
プライマリDNSアドレス	
セカンダリDNSアドレス	
検索ドメイン	
メンテナンス ユーザのユーザ名	
メンテナンス ユーザのパスワード	

Unified Managerの設定情報

Unified Managerのインストール後に設定するための詳細情報。設定によっては、一部の値は省略可能です。

設定	あなたの価値
メンテナンス ユーザのEメール アドレス	
SMTPサーバのホスト名またはIPアドレス	
SMTPのユーザ名	
SMTPのパスワード	
SMTP ポート	25（デフォルト値）
アラート通知の送信元Eメール アドレス	
認証サーバのホスト名またはIPアドレス	
Active Directoryの管理者名またはLDAPバインド識別名	
Active DirectoryのパスワードまたはLDAPバインド パスワード	
認証サーバのベース識別名	
アイデンティティ プロバイダ（IdP）のURL	
アイデンティティ プロバイダ（IdP）のメタデータ	
SNMPトラップの送信先ホストのIPアドレス	
SNMP ポート	

クラスタ情報

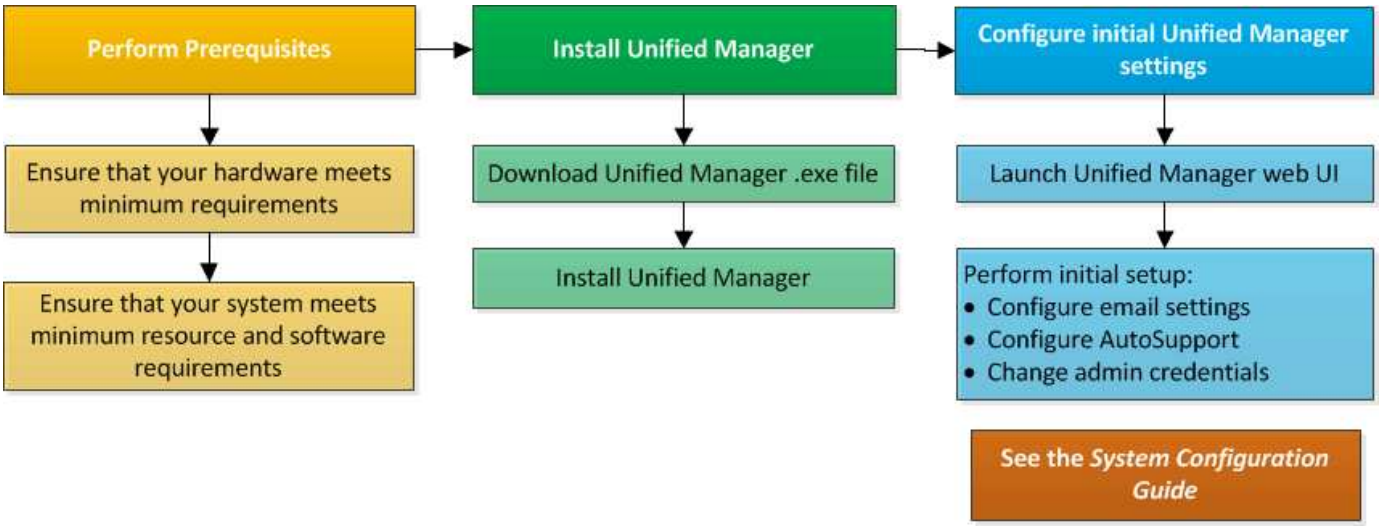
Unified Managerを使用して管理するストレージ システムの情報を記入します。

N個中のクラスタ1	あなたの価値
ホスト名またはクラスタ管理IPアドレス	
ONTAP管理者のユーザ名 管理者には「admin」ロールが割り当てられている必要があります。	
ONTAP管理者のパスワード	
Protocol	HTTPS

Unified Managerソフトウェアのインストール、アップグレード、および削除

Windows への Active IQ Unified Manager のインストールプロセスの概要

インストールワークフローには、Unified Manager を使用する前に実行する必要があるタスクが記載されています。



WindowsにUnified Managerをインストールする

WindowsへのActive IQ Unified Managerのインストール

Unified Managerをインストールすることで、データ ストレージの容量、可用性、パフォーマンス、保護の問題を監視してトラブルシューティングすることができます。

開始する前に

- Unified Managerをインストールするシステムがシステムおよびソフトウェアの要件を満たしている必要があります。

"ハードウェアシステム要件"を参照してください。

"Windowsソフトウェアとインストールの要件"を参照してください。

Unified Manager 9.5以降、OpenJDKはインストール パッケージに含まれており、自動的にインストールされます。Unified Manager 9.5以降ではOracle Javaはサポートされません。

- Windowsの管理者権限が必要です。ユーザー名が感嘆符「`!`". Installation of Unified Manager might fail if the user name of user running the installation begins with "!`」で始まらないようにしてください。
- ASA r2システムを除くすべてのクラスタがサポートされます。
- サポートされているWebブラウザが必要です。
- Unified Managerのメンテナンス ユーザのパスワードは8～20文字で指定し、アルファベットの大文字または小文字、数字、および特殊文字を含める必要があります。
- メンテナンス ユーザまたはMySQLのrootユーザのパスワードに次の特殊文字は使用できません。" ' ` % , = & < > | ^ \ / ( ) [ ] ;:

  次の特殊文字は使用できます。~ ! @ # $ * - ? .+ { }

手順

1. デフォルトのローカル管理者アカウントでWindowsにログインします。
2. NetAppサポート サイトにログインし、Unified Managerのダウンロード ページに移動します。

   "NetAppサポート サイト"

3. 必要なUnified Managerのバージョンを選択し、エンドユーザ ライセンス契約（EULA）に同意します。
4. Unified Manager Windowsインストール ファイルをWindowsシステムのターゲット ディレクトリにダウンロードします。
5. 必要に応じて、zipファイルを展開し、インストール ファイルがあるディレクトリに移動します。
6. Unified Managerインストーラの実行ファイル（.exe）を右クリックし、管理者として実行します。

   Unified Managerにより、不足しているサードパーティ パッケージとインストールされているパッケージが検出されて表示されます。必要なサードパーティ パッケージがシステムにインストールされていない場合、Unified Managerのインストール時にインストールされます。

7. *Next*をクリックします。
8. ユーザ名とパスワードを入力してメンテナンス ユーザを作成します。
9. [データベース接続]ウィザードで、MySQLのrootパスワードを入力します。
10. 変更 をクリックして、Unified Manager のインストールディレクトリと MySQL データディレクトリの新しい場所を指定します。

    インストール ディレクトリを変更しない場合は、デフォルトのインストール ディレクトリにUnified Managerがインストールされます。

11. *Next*をクリックします。

12. Ready to Install Shieldウィザードで、*インストール*をクリックします。
13. インストールが完了したら、**Finish** をクリックしてください。
14. Windowsシステムにウイルス対策ソフトウェアがインストールされて有効になっている場合は、インストールの完了後にウイルス対策スキャンの対象から次のパスを手動で除外します。
    - Unified Managerデータ ディレクトリ
    - Unified Managerインストール ディレクトリ
    - MySQLデータ ディレクトリ

インストールが完了すると、次のディレクトリが作成されます。

- インストール ディレクトリ

  インストール時に指定したUnified Managerのルート ディレクトリです。例： `C:\Program Files\NetApp\`

- MySQLデータ ディレクトリ

  インストール時に指定したMySQLデータベースの格納先ディレクトリです。例： `C:\ProgramData\MySQL\MySQLServerData\`

- Javaディレクトリ

  OpenJDKがインストールされるディレクトリです。例： `C:\Program Files\NetApp\JDK\`

- Unified Managerのアプリケーション データ ディレクトリ（appDataDir）

  アプリケーションで生成されるすべてのデータが格納されるディレクトリです。ログ、サポート バンドル、バックアップ、およびその他のすべてのデータが含まれます。例： `C:\ProgramData\NetApp\OnCommandAppData\`

ウェブ UI にアクセスして Unified Manager の初期設定を行うことができます。詳細については、"Active IQ Unified Managerの設定"を参照してください。

Active IQ Unified Manager の無人インストールを実行する

コマンドライン インターフェイスを使用して、手動操作なしでUnified Managerをインストールできます。無人インストールを実行するには、キーと値のペアの形式でパラメータを渡します。

手順

1. デフォルトのローカル管理者アカウントでWindowsのコマンドライン インターフェイスにログインします。
2. Unified Manager をインストールする場所に移動し、次のいずれかのオプションを選択してください：

オプション	手順

サードパーティ パッケージが事前にインストールされている	`ActiveIQUnifiedManager-x.y.exe /V"MYSQL_PASSWORD=mysql_password INSTALLDIR=\"Installation directory\" MYSQL_DATA_DIR=\"MySQL data directory\" MAINTENANCE_PASSWORD=maintenance_password MAINTENANCE_USERNAME=maintenance_username /qn /l*v CompletePathForLogFile"`
	
	例：
	
	`ActiveIQUnifiedManager.exe /s /v"MYSQL_PASSWORD=netapp21! INSTALLDIR=\"C:\Program Files\NetApp\" MYSQL_DATA_DIR=\"C:\ProgramData\MYSQL\MySQLServer\" MAINTENANCE_PASSWORD=* MAINTENANCE_USERNAME=admin /qn /l*v C:\install.log"`

サードパーティ パッケージがインストールされていない	`ActiveIQUnifiedManager-x.y.exe /V"MYSQL_PASSWORD=mysql_password INSTALLDIR=\"Installation directory\" MYSQL_DATA_DIR=\"MySQL data directory\" MAINTENANCE_PASSWORD=maintenance_password MAINTENANCE_USERNAME=maintenance_username /qr /l*v CompletePathForLogFile"`
	
	例：
	
	`ActiveIQUnifiedManager.exe /s /v"MYSQL_PASSWORD=netapp21! INSTALLDIR=\"C:\Program Files\NetApp\" MYSQL_DATA_DIR=\"C:\ProgramData\MYSQL\MySQLServer\" MAINTENANCE_PASSWORD=* MAINTENANCE_USERNAME=admin /qr /l*v C:\install.log"`

`/qr`オプションを使用すると、ユーザーインターフェイスが縮小されたquietモードが有効になります。インストールの進行状況を示す基本的なユーザーインターフェイスが表示されます。入力を求められることはありません。JRE、MySQL、7zipなどのサードパーティ製パッケージがプリインストールされていない場合は、
`/qr`オプションを使用する必要があります。サードパーティ製パッケージがインストールされていないサーバーで `/qn`オプションを使用すると、インストールは失敗します。

`/qn`

オプションを使用すると、ユーザーインターフェイスなしのサイレントモードが有効になります。インストール中は、ユーザーインターフェイスや詳細情報は表示されません。サードパーティ製パッケージがインストールされていない場合は、 `/qn`
オプションを使用しないでください。

3. 以下のURLを使用して、Unified Manager の Web ユーザーインターフェースにログインしてください：

   `https://IP address`

Active IQ Unified Manager で Windows の JBoss パスワードを変更する

インストール時に設定されたインスタンス固有のJBossパスワードをリセットできます。サイトでUnified Managerのインストール設定と違うパスワードが必要な場合、リセットできます。この処理を実行すると、MySQLへのアクセス時にJBossで使用するパスワードも変更になります。

開始する前に

- Unified Managerがインストールされているシステムに対するadmin権限が必要です。
- MySQLのrootユーザのパスワードが必要です。
- ディレクトリ内のNetApp提供の `password.bat`スクリプトにアクセスできるはずです。

  `C:\Program Files\NetApp\essentials\bin`。

手順

1. Unified Managerホスト マシンにadminユーザとしてログインします。
2. Windowsの[サービス]コンソールを使用して、Unified Managerの次のサービスを停止します。
   - NetApp Active IQ Acquisition Service（Ocie-au）
   - NetApp Active IQ Management Server Service（Oncommandsvc）
3. パスワード変更プロセスを開始するには、 `password.bat`スクリプトを起動します：

   ```
   C:\Program Files\NetApp\essentials\bin> password.bat resetJBossPassword
   ```

4. プロンプトが表示されたら、MySQL rootユーザのパスワードを入力します。
5. プロンプトが表示されたら、新しいJBossユーザのパスワードを入力し、確認のためにもう一度入力します。

   パスワードは8～16文字で指定し、数字、大文字、小文字、および次の特殊文字をそれぞれ1文字以上含める必要があります。

   `!@%^*-_=[]:<>.?/~+`

6. スクリプトが完了したら、Windowsの[サービス]コンソールを使用してUnified Managerの次のサービスを開始します。
   - NetApp Active IQ Management Server Service（Oncommandsvc）
   - NetApp Active IQ Acquisition Service（Ocie-au）

7. すべてのサービスが開始されたら、Unified Manager UIにログインできます。

Active IQ Unified Manager のバージョンに対してサポートされているアップグレードパスを使用してください

Active IQ Unified Managerでサポートされるアップグレード パスはバージョンごとに異なります。

すべてのバージョンのUnified Managerで、新しいバージョンへのインプレース アップグレードを実行できるわけではありません。Unified Managerのアップグレードは、N-2モデルに限定されています。つまり、すべてのプラットフォームにおいて、次の2つのリリースへのアップグレードしか実行できないということです。例えば、Unified Manager 9.14および9.16からUnified Manager 9.18へのアップグレードのみ可能です。

サポート対象よりも前のバージョンを実行している場合は、Unified Managerインスタンスをサポート対象のいずれかのバージョンにアップグレードしてから、最新のバージョンにアップグレードする必要があります。

たとえば、現在Unified Manager 9.9がインストールされていて、Unified Manager 9.14にアップグレードする場合、アップグレード手順は次のようになります。

アップグレード パスの例：

1. 9.11から9.13にアップグレードします。
2. 9.13から9.14にアップグレードします。
3. 9.13から9.16にアップグレードします。
4. 9.14または9.16 → 9.18へのアップグレード

アップグレードパスマトリックスの詳細については、こちら "ナレッジベース（KB）記事"を参照してください。

Windows上でActive IQ Unified Managerをアップグレードする

WindowsプラットフォームでUnified Manager 9.14または9.16から9.18にアップグレードするには、インストール ファイルをダウンロードして実行します。

開始する前に

- Unified Managerをアップグレードするシステムがシステムとソフトウェアの要件を満たしている必要があります。

  "ハードウェアシステム要件"を参照してください。

  "Windowsソフトウェアとインストールの要件"を参照してください。

  Unified Manager 9.5以降、OpenJDKはインストール パッケージに含まれており、自動的にインストールされます。Unified Manager 9.5以降ではOracle Javaはサポートされません。

  アップグレードを開始する前に、Microsoft .NET 4.5.2以降がシステムにインストールされていることを確認してください。

- MySQL Community Editionは、Unified Managerのアップグレード時に自動的にアップグレードされます。

システムにインストールされているMySQLのバージョンが8.4.10より前の場合は、Unified Managerのアップグレード プロセスによって8.4.10に自動的にアップグレードされます。MySQLを単体で旧バージョンから8.4.10へアップグレードしないでください。

- ASA r2システムを除くすべてのクラスタがサポートされます。
- Windowsの管理者権限が必要です。ユーザー名が感嘆符「`!`". Installation of Unified Manager might fail if the user name of user running the installation begins with "!`」で始まらないようにしてください。
- NetAppサポート サイトにログインするための有効なクレデンシャルが必要です。
- アップグレードで問題が発生した場合にデータが失われないようにするために、Unified Managerマシンのバックアップを作成しておく必要があります。
- アップグレードを実行するための十分なディスク スペースが必要です。

  インストール ドライブに、データ ディレクトリのサイズに加え、2.5GBの使用可能なスペースが追加で必要になります。十分な空きスペースがないと、アップグレードが中止され、追加で必要なスペース量がエラー メッセージに表示されます。

- アップグレードの実行中に、パフォーマンス データの保持期間について、以前のデフォルト設定である13カ月のままにするか6カ月に変更するかを確認するプロンプトが表示されることがあります。変更を確認すると、6カ月を過ぎた過去のパフォーマンス データはパージされます。
- アップグレードする前に、*<InstallDir>\JDK* および *MySQL Data Directory* 内の開いているファイルやフォルダをすべて閉じる必要があります。
- Windowsシステムにウイルス対策ソフトウェアがインストールされて有効になっていると、Unified Managerのアップグレードに失敗することがあります。Unified Managerをアップグレードする前に、システムのウイルススキャン ソフトウェアをすべて無効にしてください。

アップグレード プロセスの実行中は、Unified Managerを使用できなくなります。実行中の処理がある場合は、Unified Managerをアップグレードする前に完了しておいてください。

Unified ManagerをOnCommand Workflow Automationのインスタンスとペアにして使用している環境では、両方の製品のソフトウェアで新しいバージョンを利用できる場合、2つの製品間の接続を解除してから各製品をアップグレードし、アップグレードの実行後にWorkflow Automationの接続を新たにセットアップする必要があります。いずれかの製品のみをアップグレードする場合は、アップグレード後にWorkflow Automationにログインし、Unified Managerからデータを取得していることを確認します。

手順

1. NetAppサポート サイトにログインし、Unified Managerのダウンロード ページに移動します。

   "NetAppサポート サイト"。

2. 必要なUnified Managerのバージョンを選択し、エンドユーザ ライセンス契約（EULA）に同意します。
3. Unified Manager Windowsインストール ファイルをWindowsシステムのターゲット ディレクトリにダウンロードします。必要に応じて、zipファイルを展開し、インストール ファイルがあるディレクトリに移動します。Unified Managerインストーラの実行ファイル（.exe）を右クリックし、管理者として実行します。

   Unified Managerから次のメッセージが表示されます。

   ```
   This setup will perform an upgrade of Unified Manager. Do you want to
   ```

```
continue?
```

4. 「はい」をクリックし、次に「次へ」をクリックしてください。
5. インストール時に設定した MySQL84 の root パスワードを入力し、次へ をクリックします。
6. サポートされているWebブラウザの新しいウィンドウでWeb UIを起動し、アップグレード後のバージョンのUnified Managerにログインします。
7. Windowsシステムにウイルス対策ソフトウェアがインストールされて有効になっている場合は、アップグレードの完了後にウイルス対策スキャンの対象から次のパスを手動で除外します。
   - Unified Managerデータ ディレクトリ
   - Unified Managerインストール ディレクトリ
   - MySQLデータ ディレクトリ

> Unified Manager のサイレントアップグレードを実行するには、次のコマンドを実行します：`ActiveIQUnifiedManager-<version\>.exe /s /v"MYSQL_PASSWORD=<password> /qn /l*v <system_drive>:\install.log"`

サードパーティ製品をアップグレードする

Windows 上の **Active IQ Unified Manager** でサードパーティ製品をアップグレードする

JREなどのサードパーティ製品がWindowsシステムにインストールされている場合は、Unified Managerでその製品をアップグレードできます。

これらのサードパーティ製品の開発元では、定期的にセキュリティ脆弱性が報告されています。これらのソフトウェアは、新しいバージョンに随時アップグレードすることができます。

Windows 上の **OpenJDK** を **Active IQ Unified Manager** 用にアップグレードする

Unified ManagerがインストールされているWindowsサーバでOpenJDKを新しいバージョンにアップグレードすることで、セキュリティの脆弱性に対する修正を入手できます。

開始する前に

Unified ManagerがインストールされているWindowsシステムに対するadmin権限が必要です。

OpenJDKは同一リリース ファミリー内でのみ更新可能です。たとえば、OpenJDK 11.0.16からOpenJDK 11.0.18にはアップグレードできますが、OpenJDK 11からOpenJDK 12に直接更新することはできません。

手順

1. Unified Managerホスト マシンにadminユーザとしてログインします。
2. OpenJDKのWebサイトから、該当するバージョンのOpenJDK（64ビット）をターゲット システムにダウンロードします。

   例えば、"Oracle Java SE 17アーカイブのダウンロードページ"から `jdk-17.0.15_windows-x64_bin.zip`ファイルをダウンロードします。

ファイルをダウンロードするには、Oracleアカウントが必要です。Oracleアカウントをお持ちでない場合は、"Oracleアカウントのサインインページ"にアクセスして作成してください。

3. Windowsの[サービス]コンソールを使用して、Unified Managerの次のサービスを停止します。
   - NetApp Active IQ Acquisition Service（Ocie-au）
   - NetApp Active IQ Management Server Service（Oncommandsvc）
4. `zip`ファイルを展開します。
5. 結果として得られた`jdk`ディレクトリ（例： `jdk-11.0.18`）のディレクトリとファイルを、Java がインストールされている場所にコピーします。例： `C:\Program Files\NetApp\JDK\`
6. Windowsの[サービス]コンソールを使用して、Unified Managerの次のサービスを開始します。
   - NetApp Active IQ Management Server Service（Oncommandsvc）
   - NetApp Active IQ Acquisition Service（Ocie-au）

Active IQ Unified Manager のサードパーティ製品をアンインストールする

Unified Managerをアップグレードした後、PythonやMicrosoft Visual C++ 2013などのサードパーティ製品をアンインストールできます。これは任意です。

Pythonをアンインストールする

手順

1. コントロールパネル*から*プログラム > *プログラムと機能*を選択します。
2. プログラムのリストからPythonを選択します。
3. 「このプログラムをアンインストールする」を選択してください。Pythonのバージョン3.13.3以外はすべてアンインストールしてください。Pythonのバージョン3.13.3を保持していることを確認してください。

Microsoft Visual C++ 2013 をアンインストールする

手順

1. コントロールパネル*から*プログラム > *プログラムと機能*を選択します。
2. プログラムの一覧から **Microsoft Visual C++ 2013** を選択してください。
3. 「このプログラムをアンインストールする」を選択してください。

Windows で Active IQ Unified Manager を再起動する

設定を変更した場合、Unified Managerの再起動が必要になることがあります。

開始する前に

Windowsの管理者権限が必要です。

手順

1. デフォルトのローカル管理者アカウントでWindowsにログインします。

2. Unified Managerのサービスを停止します。

方法	以下の順序でサービスを停止してください...
コマンドライン	a. `sc stop ocie-au` b. `sc stop Oncommandsvc`
Microsoftサービス マネージャ	a. NetApp Active IQ Acquisition Service（Ocie-au） b. NetApp Active IQ Management Server Service（Oncommandsvc）

3. Unified Managerのサービスを開始します。

方法	以下の順序でサービスを開始してください...
コマンドライン	a. `sc start Oncommandsvc` b. `sc start ocie-au`
Microsoftサービス マネージャ	a. NetApp Active IQ Management Server Service（Oncommandsvc） b. NetApp Active IQ Acquisition Service（Ocie-au）

Active IQ Unified Manager のアンインストール

Unified Managerをアンインストールする場合は、[プログラムと機能]ウィザードを使用するか、コマンドライン インターフェイスから無人アンインストールを実行します。

開始する前に

- Windowsの管理者権限が必要です。
- ソフトウェアをアンインストールする前に、Unified Managerサーバからすべてのクラスタ（データ ソース）を削除しておく必要があります。
- MySQLポート3306を許可またはブロックする目的で作成されたファイアウォール ルールは、手動で削除する必要があります。このファイアウォール ルールは自動的には削除されません。

手順

1. 次のいずれかを実行してUnified Managerをアンインストールします。
   - *プログラムと機能*ウィザードからUnified Managerをアンインストールする場合は、以下の手順を実行してください：
     i. 「コントロール パネル」 > 「プログラムと機能」の順に移動します。
     ii. Active IQ Unified Manager を選択し、アンインストール をクリックします。
   - コマンドラインからUnified Managerをアンインストールする場合は、次の手順を実行します。
     i. 管理者権限でWindowsのコマンドラインにログインします。
     ii. Active IQ Unified Managerディレクトリに移動し、次のコマンドを実行します。

```
msiexec /x {A78760DB-7EC0-4305-97DB-E4A89CDFF4E1} /qn /l*v
%systemdrive%\UmUnInstall.log
```

サーバでユーザ アカウント制御（UAC）が有効になっていて、ドメイン ユーザとしてログインしている場合は、コマンドラインによるアンインストールを実行する必要があります。

Unified Managerがシステムからアンインストールされます。

2. Unified Managerのアンインストール時に削除されない次のサードパーティ パッケージとデータをアンインストールします。
   - サードパーティ製パッケージ：JRE、MySQL、Microsoft Visual C++ 2015 再頒布可能パッケージ、Python、および 7zip
   - Unified Managerによって生成されたMySQLアプリケーションデータ
   - アプリケーション ログとアプリケーション データ ディレクトリのデータ

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、http://www.netapp.com/TMに記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。